

参考資料 1 起草委員会資料（文化・学習）

審議会委員からの意見等

期日までに受け付けた連絡票の件数

	意見等連絡票① (市民意見の収集結果 に基づく意見等)	意見等連絡票② (左記以外の意見等)
保健・福祉	3件	1件
生活・環境	3件	1件
文化・学習	4件	2件
その他	1件	2件

意見等連絡票 【文化・学習】

記載は、内容ごとに受付順です。

NO.	留意すべき点、課題、方向性等
1	<p>留意点：市職員等による小中学校での教育・体験学習 方向性：市がやっている活動の教宣や体験の強化 交通安全、防災訓練、企業見学等</p>
2	<p>評価されていてさらに周知が望まれるワード 図書館、自習室（居場所）、給食</p> <p>より推進されるとよいと思われるワード ICTの活用、インターネットの正しい使い方、歴史や由緒の発信</p>
3	<p>(1)(再掲) 広報に関する声が複数ありました。いかなる制度や施策であっても、必要とする市民にその情報が伝わらないと意味をなしません。このような観点から、市民が、必要とする情報に効果的にアクセスできる一元的な窓口の仕組みをAI活用して複数チャンネル(紙媒体、電話、LINE、アプリ等)で整備することを課題としてよいと思います。なお、声のなかには、TikTok、YouTubeなどのショート動画サイトの活用、スマートフォンのアプリの活用を提案する声がある一方で、高齢者などスマートフォンが利用しづらい層、日本語が不自由な外国人住民への広報手段にも留意すべきとの声があった点にも留意したいと思います。</p> <p>(2) 6,555人(2024年11月現在)に増加した外国人住民とのつながりを求める声も複数ありました。観光で来訪するインバウンド観光客も増加していると思われます。タウンミーティングを含めた、外国人住民の声を市政に反映させるチャンネルの整備、外国人のための相談窓口の拡充、外国人住民による市の行事への参加の可視化、複文化を有する外国人住民の知見の市政への活用等を課題としてもよいと思います。具体的な施策として、現在、外国人住民への支援(日本語教室など)を実施している国際交流サロンを国際交流協会に「格上げ」し、整備することを課題としてもよいと思います。</p> <p>(3) シングル・ペアレントへの支援サービスを求める声やDV支援を土日にも開設してほしいという声もありました。少子化が進むなかで、子育て世代に住みやすい町づくりという観点から、これらの施策の実施を検討することが望ましいと思われます。</p>

	<p>(4) 市内にある大学（農工大・東外大）との連携を深めるとともに、連携のあり方が市民に伝わる工夫をしてほしいという声が複数ありました。大学側でも大学が立地する地域との連携の強化に取り組んでいるところです。各大学の強み（農工大の農業・工業分野、東外大の外国語・文化の理解、人文社会分野）を活かすことで、総合計画に示された他の諸課題の解決のために、さらなる連携の深化を課題としてよいと思います。</p> <p>(5) 府中市は熊野神社古墳、国府・国司館跡、大國魂神社およびその祭事など東京都を代表する有形・無形の歴史的文化遺産がありますが、市民や市を訪問する観光客に十分に認知されていないことを懸念する声があります。市民の府中市の歴史に対する理解を深め、愛着を高め、ひいては市内外の住民に対する府中市の魅力を高めるという観点から、現地の説明板、観光協会による SNS の活用、学生に協力を得てのマップ作成など、さまざまなチャンネルを通じた広報活動の促進を課題としてよいと思います。とくに、国府・国司館跡については、隣接する国分寺市と連携し、武蔵国分寺・国分尼寺跡との一体的な観光資源化が有効ではないかと思います。</p> <p>(6) 学習環境が整備されたプラッツの役割を高く評価する声がある一方で、中高生の居場所づくりの必要性を求める声がありました。プラッツを中核としつつも各町単位で中高生による自主的な居場所づくりの促進を施策として盛り込んでもよいのではないのでしょうか。</p> <p>(7) 教育における ICT の取り組みの重要性をあげる声がある一方で、新しい取り組みが教員への負担を増やすことを懸念する声もありました。ICT がむしろ教員の業務負担を軽減する方向で市として支援する取り組みを課題としてよいと思います。</p>
4	<p>「サービスが本当に必要な人のところへは届いていない（情報も）」と感じている意見が多い。</p> <p>不登校、ひきこもり、ひとり親、外国人、障害者等の中でも、まだ顕在化していない部分（自分で声を上げられない人）へのアプローチを考える必要があります。世代を超えた交流や、街全体で子供達を守り育てようという思いはある。しかし核家族化が進み、自己責任論や個人主義的思想の現代社会において、心に余裕が持てない大人が多く、コロナによりさらに分断が進んだせいで、子ども達に皺寄せが行っているのでは。</p>

SNS の扱いは今後、要注意と感じている意見も。
地域と世代間の繋がりを強化することにより、より主体的に文化的な充実した生活を手に入れることができるはずです。
ICT には子供の頃から慣れておくことに越したことはないが、必須ではないし目的になってはいけないと思います。あくまでそれを利用した、子供の主体的な学びや体験から得られるものが一番重要。教員は、第二の保護者と言っても過言ではないほど、子どもにとっては影響力があります。しかし、学校教育は「子育てサービス」ではないので保護者の親としての責任の所在も明確にするべきではないでしょうか。
スポーツタウンとしての施策は進んでいる（進めやすい）が「府中市として」という観点の施策は府中市史以外にあまり無いということが意見から伺えます。お祭り、お囃子という意見も出ているが、府中の歴史・伝統・文化・芸術は、「残す」だけでなく、「まちづくりに最大限活かす」施策がないともったいないと思います。お祭りやイベントの時（一過性の）だけでなく、まちづくりのコンセプトから、府中市のポテンシャルを前提に考えるべきと思います。

意見等連絡票 【文化・学習】

記載は、内容ごとに受付順です。

NO.	留意すべき点、課題、方向性等
1	<p>3-4 スポーツ活動の支援 健康寿命改善目標を設定し、それを実現する為の施策作りと運用</p> <p>3-5 学校教育の充実 学童の壁(4年で終了)撤廃 小学5 - 6年対象のアフタースクール =勉強や趣味のスクール 趣味、受験準備、リカ(理科)クラブ等本人意向で実施 <u>定年理科教師、趣味に長けた高齢者活用</u> 公立小中横断の独自英語教育 : 英語の苦手な府中市民の改善、市ならできる施策 (参考例)さいたま市「英語力日本一」 小学5年生を対象とした農業体験、企業見学</p>
2	<p>全体を通して、「多様性」「持続可能な」というような便利な言葉が多く使われているように思います。 この言葉は、受け取る側の立場や考え方によって、全く異なる意味合いとなってしまうこともあります。 よって、主語や目的語をはっきりと書けないのであれば、「多様性」や「持続可能な」などの言葉を使用するのは避けた方が良いでしょう。</p> <p>例えば、「多様性」を重んじる方針ならば、SDGsを推進しない方が良いでしょうと思っている人の考え方も認めなければならないはずです。地方自治体の総合計画に、SDGsのマークまで載せるとするのは府中市としての主体性にも欠けると思います。 市民にとっての「持続可能」と事業者や行政にとっての「持続可能」は真逆となることもあります。</p> <p>行政も市民も対等な関係でまちづくりをすると良いでしょう。変に謙ることはしなくて良いでしょうし、受益者負担に関してもバランスを考える必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>課題が出てくる度に、それに対処する対症療法のような施策を考えるのではなく、根本的な解決につながるような考え方からの施策を期待します。</p>

参考資料 2 起草委員会資料（都市基盤・産業）

審議会委員からの意見等

期日までに受け付けた連絡票の件数

	意見等連絡票① (市民意見の収集結果 に基づく意見等)	意見等連絡票② (左記以外の意見等)
保健・福祉	3件	1件
生活・環境	3件	1件
文化・学習	4件	2件
都市基盤・産業	3件	1件
その他	1件	2件
計	14件	7件

意見等連絡票 【都市基盤・産業】

記載は、内容ごとに受付順です。

NO.	留意すべき点、課題、方向性等
1	<p>バリアフリー、歩道の傾斜解消 留意点：身障者の視点にたった基盤整備 方向性：身障者だけでなく、介護者（例えば車いすを押す人）からの意見聴取</p> <p>長く跡地になっているところの活用 留意点：府中基地跡地、法務局跡地、少年院跡地 方向性：休みの人に多くの市民が集まる憩いの場 （例）空中の村（十津川村の空中ウォーク） 大人も子供も楽しめるアスレチック</p>
2	<p>(1)(再掲) 都市におけるモビリティの向上という大きな枠組みの基礎レベルとして、歩行モビリティの安全性・快適性の向上を課題としてあげてもよいのではないのでしょうか。具体的には、歩道の整備（歩道と車道の分離、歩行者と自転車の分離）だけでなく、府中市の資源である張り巡らされた「緑道」と多摩川に沿った「堤防上の遊歩道」を活用し、これらの整備および拡張・連結による回遊性の向上が課題になると考えます。結果として、市民の住みやすい町づくりとなり、若者の府中定着につながることを期待します。</p> <p>(2)(再掲) 多摩川のBBQエリアが良いという声がある一方、多摩川の氾濫への不安や水系生物相調査の現状を気にする声がありました。多摩川河岸は水害のリスクをかかえる一方で、親水公園等としての立地条件に恵まれています。府中市はこの点でやや他市に出遅れているように感じます（例：多摩市の一ノ宮公園）。このような観点から、多摩川沿岸の親水公園としての整備を課題に挙げてよいのではないのでしょうか。</p> <p>(3) 路面バスやちゅうバスの本数の不足や住居から路線までのアクセスの遠さを訴える声が多数ありました。これらは都市におけるモビリティの向上という観点から、民間・市を越えた一体的な取り組みが必要だと思われます。一つの手段だけでは限界があるので、路面バス、京王電鉄、JR 東日本、ちゅうバスという様々な公共交通手段やその他の交通手段を組み合わせ、シームレスかつ一定の運賃で移動できる、Maas 型のモビリティの提供の整備を課題にあげてもよいのではないのでしょうか。また、Maas 型交通を考えるうえでは、多摩総合医</p>

	<p>療センターへのアクセスに求められているように、府中のみではなく近接都市との連携も考慮すべきだと思います。</p> <p>(4) 市民の声にはあがっていませんでしたが、市内の主要道路の無電柱化の促進は、災害への強靱性の向上および都市景観の向上という観点から有効ではないでしょうか。無電柱化率が他市と比較して相対的に高い都市として府中をアピールすることができれば、結果として、市民の住みやすい町づくりとなり、若者の府中定着につながることを期待します。</p>
3	<p>自転車の交通ルールが心配という意見や、街路樹の手入れ等景観に関連のあることに関心があるのは、けやき並木を府中市の誇りとして大切にしていきたいという思いからだと思察されます。</p> <p>ちゅうバスへの期待が意見からも伺えます。</p> <p>線路や踏切の整備、無電柱化もまちづくりには重要かと思えます。</p> <p>全体的に、府中市の自然と調和した環境は素晴らしいという意見が多い一方で、開発を急ぐ声もあるが、自然は一度破壊したら元には戻らないので、慎重に考えるべきだと思います。</p> <p>特に府中駅周辺の開発に関しては、一体感や統一感が足りないという意見が多く、もっと府中らしさをまち作りに反映していくべきだと思います。</p> <p>開発がパッチワーク状で進められたせいか、府中駅周辺の東西の行き来のしづらさ、駐輪場がわかりにくい状況はなんとかした方が良いでしょう。</p> <p>地元の農家や農地を守ることは、食料安全保障上、最も重要で、尚且つお金もかからない。農業に興味はあるものの、どのような行動したら良いのかわからない人に向けて、分かり易い施策を打つべきだと思います。</p> <p>給食に地場産野菜を取り入れることが難しいなら、別の方法で各家庭に届くようにするなど工夫が必要かもしれません。</p> <p>商店街を守る施策がしっかりすれば、新規参入や後継者などのモチベーションが高まるので、府中市独自の施策に期待します。そのためにも、市民のニーズを知るワークショップ方のタウンミーティングはとても大切だと思います。</p>

意見等連絡票 【都市基盤・産業】

記載は、内容ごとに受付順です。

NO.	留意すべき点、課題、方向性等
1	<p>これから益々多くなる高齢者・その道のプロやOBの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者人材派遣会社 <ul style="list-style-type: none"> = 高齢者事業団(市で委託会社設立) タイムシェアの派遣紹介も ・ 高齢者による職業訓練：市内にある技術ノウハウの伝承 ・ 高齢者による伝統技術の若手育成訓練 ・ 高齢者による地元企業業績改善コンサル事業団